

研究者の素顔や生き方、いかがでしたか？

リボンでつながる先輩たちのメッセージから

研究者それぞれの考えや想いが

伝わってきたのではと思います。

この青いリボンが

あなたの未来につながることを願って・・・

京都大学

男女共同参画推進センター

未来に繋がる

青いリボンのエトセトラ

＝ Vol.5 ＝

— 京都大学を目指すあなたへ —
研究者からの言葉、それは未来につながるメッセージ。



京都大学男女共同参画推進センター





Girls, be Ambitious!

しなやかに、たおやかに、うたれ強く

自由の学風のもと、高レベルな教育と先端的研究を推進してきた京都大学。創立から120余年を経た今、目標とする六つの指針から頭文字をとった「WINDOW構想」を進めています。その「W」の一つが「Women and the World」。女性研究者の支援です。女性にも優しい環境と体制を整え、希望をもって社会に羽ばたけるように——。京都大学はさまざまなサポートを用意しています。

男女を問わず大切なのは、まず自らが強くあること。そうすれば個性を発揮でき、支援も生きてきます。人生も研究も、一つの可能性だけに固執すると上手くいかない時に落ち込みますから、しなやかに、たおやかに、うたれ強く、自分を見つめチャンスをつかんで欲しいと願っています。

稲葉カヨ

男女共同参画・国際・広報担当理事
副学長、男女共同参画推進センター長

奈良女子大学理学部卒業。京都大学大学院理学研究科博士課程修了。京都大学理学部助教授(女性初)、同大学院理学研究科助教授を経て、同生命科学研究科教授に就任。生命科学研究科長(女性初)を務めた。米国ロックフェラー大学連携教授を併任。免疫システムにおける樹状細胞の主要な役割の解明に貢献し、2014年「ロレアル・ユネスコ女性科学賞」を受賞。2016年に紫綬褒章を受章。

●山根 久代（農学研究科 准教授）	04	●松尾 寛子（京都大学学生総合支援センター 特定准教授）	14
●船曳 康子（人間・環境学研究科 教授）	06	●帯谷 知可（東南アジア地域研究研究所 社会共生研究部門 准教授）	16
●加藤 果林（医学部附属病院麻酔科 助教）	08	●京大で学ぶ女子特別座談会	18
●アスリ チョルパン（経営管理大学院・大学院経済学研究科教授）	10	●イベント情報	20
●竹内 里欧（国際高等教育院 准教授）	12		

消去法で選んだ道が運命だった。自分を発揮できる環境 を得られた幸せ

農学研究科 准教授 / 山根 久代 (YAMANE Hisayo)

やまね ひさよ 農学研究科 准教授

京都大学農学部卒業→同大学院農学研究科修士課程修了→同博士後期課程退学→京都大学農学研究科助手→同准教授

【研究テーマ】果樹の花色・休眠・受精・結実など生物季節学的生理機構に関する研究

面白いと思えるものを求めた先に、研究者への道があった

子どもの頃から植物は好きでしたが、農学部への進学を決めたのは、実は消去法でした。私はもともと完全に理系タイプで、何かにコツコツと打ち込むのが大好きな方。でも、医学の道に進んで人の命を預かるのは怖いし、植物なら再チャレンジもあるのではないかと思います(笑)。自分に向いていることで、何か役立つことがしたい。そう考えた時に、じっくりするのが農学部でした。

選んだ学科は、作物生産を勉強する農学科。当時は今より学科体制が細かく分かれていて、研究室も稲なら稲、野菜なら野菜と、作物別に分かれていました。授業ではそれぞれの先生が専門の作物を詳しく教えてくれて、実習では実際に作物に触れて育てて研究して。いざ勉強を始めてみると、すべてが新鮮で、私がやりたかったことはこれだ! と思いました。

研究者になるという道は、その延長線上にあっただけでした。その時、与えられていた研究テーマが先端的で、すごく面白く感じました。学会で発表すると、出席者から反響があり、もうちょっと頑張ったらまた皆さんが興味を持ってくれるかなと。そんな感じでどんどのめり込んでいきました。博士課程に進むということは、その先の人生を決めるということ。もちろん不安はありましたが、「今、面白いことがあるんだから、それをやればいいじゃないか!」と、持ち前のポジティブ思考で突き進んだような気がします。



自然が相手の研究は大変。でも自分ができることを精一杯!

今は三つの研究テーマに取り組んでいます。一つは10年前から行っている植物の「休眠現象」。植物が冬に葉を落として春に発芽する、その仕組みを遺伝子レベルで解明しようというものです。これは農学というより植物学に近い研究です。そして、もう少し生産・消費に関わることがしたいと思い、数年前からブルーベリーとライチの研究を始めました。ブルーベリーのおいしさを決める要因を解明したら、効率よくおいしいブルーベリーが作れるんじゃないか。種が小さくて食べられる部分が多いライチを、実を壊さずに予測する技術を開発できないか。そういった研究をしています。

果樹が相手なので、まずしっかり育てないと始まらないし、収穫シーズンが1年に1度なので、その時にきちんとデータを得ないと先に進まない。農学の研究はそこが一番大変かもしれません。育てつつ、分析しつつ、技術の進展を追いながら論文にも目を通す。子育てをしながらなので、思いどおりに進まないこともあります。そこはある程度割り切って。自分にできることを精一杯やるしかないと思っています。打ち込めるものに出会えて、個性を活かせる場所があって、自分の価値を認めてもらえて……忙しい日々ですが、幸せな環境だなと感じています。

毎週火曜日には、学生たちが英語でショートトーク!を行っています。私が所属している研究室の特徴は国際化。学生にはなるべく国際シンポジウムで発表する機会を作り、留学生も多く受け入れています。私も台湾やアメリカなどの研究機関と共同研究を行っている他、今年は国際シンポジウムの共同委員長も務めました。「どんな進路を進むにせよグローバル社会を生きていく学生さんには、若いうちから多様な価値観への理解を深めてほしいと思っています。」



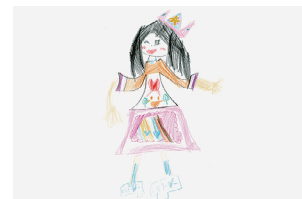
高校生へのメッセージ

人と違う「変」な部分を、そのまま受け入れる環境が京大にはあります。無理に飾らず、そのままの自分で飛び込んでください。私自身、人とのコミュニケーションが苦手な風変わりな高校生でしたが、京大で自分にマッチした研究室を見つけられたことで、ここまでやって来られました。個性を生かせる場所はきっとあります。自分の価値観を大切に、周りに惑わされずに、自分の道を進んでください。

♥ ESSENTIAL THINGS

会話をするだけでも面白い♪
子どもと過ごす幸せな時間。

同じことを見聞かしていても、違う視点を持っているので、会話をするだけでも楽しい。女の子だから早熟なのか、服装に関しても生意気にアドバイスをしてくるんです。まるで友達みたいです。



📷 私のKey Item

毎年自家製の梅酒と梅干しづくり、
コンビニおにぎりも梅干し!

「やはり2匹のころと比べると無理がきかなくなってきました。夏バテ防止には梅干が一番です。管理している圃場には約20品種の梅があります。毎年6月には自家製の梅酒と梅干しをつくっています。毎日1粒の梅干し、おススメです」



久代先生のある1日

- 06:30 起床
- 08:00 小学生の子供と夫を送り出す
- 09:00 出勤
- 09:30 研究室で朝のミーティング
- 10:00～ 講義・研究・学生とのディスカッション・会議など
- ～18:00
- 18:30 学童にお迎え
- 19:00 帰宅・家事・夕食・お風呂
- 21:30 子供と一緒に読書時間
- 22:00 文献チェックなど情報収集
- 23:00 就寝

出勤前にひとりでコーヒータイム、頭を仕事に切り替えるための大切な時間です

娘は音読がとても上手、2人でそれぞれ好きな本を読みます

紆余曲折は“今”への過程。誰にとっても互いに生きやすい世の中へと。

人間・環境学研究科 教授 / 船曳 康子(FUNABIKI Yasuko)

ふなびき やすこ 人間・環境学研究科 教授

京都大学医学部卒業→医学部附属病院 研修医→京都市立病院 修練医→京都大学大学院医学研究科→カリフォルニア工科大学 リサーチフェロー

→京都大学大学院医学研究科 研究員・特任助手→日本学術振興会特別研究員RPD(京都大学)→医学部附属病院 精神科神経科 助教

→大学院人間・環境学研究科 准教授→大学院人間・環境学研究科 教授

【研究テーマ】自閉症・発達障害のメカニズム解明と社会支援と二次障害の予防、メンタルヘルスの国際比較、学校精神保健

恩師の言葉を胸に刻み、我が道をひたむきに歩む

人から10年遅れをとってもいいから、我が道を進みなさい。先を争ってはいけない——。人生の指針となったのは、入局先の教授が掛けてくれたこの言葉でした。当時は今と違って、6回生の秋に所属する診療科を決めなければいけなかった時代。私は、その時点で人生の方向性を絞るのではなく、もう少し経験を積んでからにしたい。そして家庭も大切にしていきたいと考えていました。その希望を理解し、尊重してくださる教授に出会えたことは、とても幸せなことだったと思います。

それからはまさに我が道を選択し続けてきました。大学院では認知症の研究をしたのですが、進めるうちに“忘れる”の前段階である“覚える”から取り組みたいと思い、アメリカへ留学。小鳥を育てて歌を覚えさせ、忘れるまでの経過をみることで、ライフスパンを通した認知機構の研究を行いました。すると、思った以上に“覚える”こと、つまり発達の段階が大変という事に気が付きました。加えて、留学中に出産を経験したことで、子どもたちを取り巻く日本とアメリカの環境の違いにも興味を持ちました。アメリカは親や子に対する社会支援システムが整っていて、ハンディキャップのある方々への理解や配慮がおこなわれている。それに対して日本はどうだろう?と。その時の疑問が、今、私が行っている研究の出発点。認知症の研究者が増えていたこともあり、帰国したらこのテーマに取り組もうと決意しました。

転身に見える選択。

一つずつが繋がって今がある

ただ、一口に子どもの社会支

援といっても、関わり方は多岐に渡ります。例えば行政でできることもあるし、教育学の目線からできることもある。私が思う重要なポイントは何だろう?と考えた時、出した結論は“心”、つまり精神医学からのアプローチでした。発達障害など何らかの気がかりな特徴のある子ども、または病気の子どもをもつ親御さんは、必ずといっていいほど将来の心配をされています。その悩みに向き合おうと思ったら、大人になった時の像を理解していないとなりません。子どもの支援だけ考えていると、「大人になったらもう知らない」ということになりますから。精神医学を一から学びなおし、成人のこころの支援や診療をしっかりとすることで、現在の子どもの支援に役立てようと考えました。

私が始めに所属したのは老年科。帰国してから精神科に移り、児童精神医学を専門とし、そして今は人間・環境学研究科で研究しています。周囲の人からはよく「なぜそんなに転身しているの?」と聞かれるのですが、私の中では転身ではなく、ひと繋がりのなです。認知症を研究したから、それをヒントに子どもの社会支援の枠組みの発想につながり、それを実現するために精神医学を学んだから今がある。

現在は四つのプロジェクトを掲げていますが、メインで取り組んでいるのは、発達障害の人を支援するシステム作りや、自閉症における脳内メカニズムの解明。この研究によって、医療なら医療、社会なら社会、教育なら教育と、それぞれが単独で支援している現状を見つめ直し、総合的な支援体制を構築すること。そして、自閉症をはじめとした人への理解を深め、誤解や勘違いから起こる日常のトラブルを防ぐことを目指しています。例外が多く、明確な答えを出しにくい分野ではありますが、あきらめずにコツコツと。一人でも多くの人が過ごしやすい世の中を作るために……。



高校生へのメッセージ

研究は大きな花火を一発打ち上げて、太く短くやればいい、というものではありません。細くてもねばり強く続け、長期的スパンで真髄に迫ること。それが本来の研究の姿であり、大切なことだと感じています。もちろん分野によって違いはありますが、私がいるフィールドのように、比較的時間の調整がしやすい場所もあります。このような、細く長く分野の研究職は家庭と仕事の両立を考えている人にも向いている職業の一つだと思います。

💡 ESSENTIAL THINGS

忙しい毎日を癒してくれる、子どもと過ごす大切な時間。

仕事との両立は大変ではありますが、息抜きにも原動力にもなっている子育て。ちょっとした時間を作れたら、子どもと過ごすようにしています。描いてくれた似顔絵やダンボールで作った作品は、大切に保管しています。



📷 私のKey Item

留学先で毎日観察した小鳥は可愛いパートナーでもあった。

アメリカに留学していた頃、研究対象であり、癒しでもあった小鳥たち。「日本を飛び出して、小鳥の歌の研究に行ってきます」と宣言した時は、周囲にびっくりされました。



(小鳥も子育て中)

康子先生のある1日

- 06:30 起床
子どもたちのお弁当作り けっこう大変
- 07:30 家事、メールチェック
- 08:20 出勤
- 08:45 講義、ゼミ、会議、研究 学生との会話も息抜きの一つ
- 12:00 昼食(教職員や学生との情報交換・ランチ会議)
- 13:00 ゼミ、会議、研究、学生との打ち合わせ、地域連携会議
- 18:00 帰宅、夕食、家事 日々の会話を大切にしています
- 21:00 メールチェック、諸作業、翌日の準備など
- 23:00 就寝

救命のスペシャリストとして、研究者として、少しでも多くの 命を救いたい

医学部附属病院麻酔科 助教 / 加藤 果林 (KATO Karin)

かとう かりん 医学部附属病院麻酔科 助教

京都大学医学部卒業→西神戸医療センター 初期研修医→倉敷中央病院 後期研修医→医学部附属病院麻酔科医員

→同大学院医学研究科博士課程修了→医学部附属病院麻酔科 助教

【研究テーマ】周術期における感染症制御

「麻酔って魔法だ！」感動して選んだ麻酔科医としての道

医師を志したきっかけは、私自身が幼少期に病弱で、病院にかかることが多く、加えて、母から働きながら家庭を持つことの大変さを聞かされ、手に職をつける必要性を感じたからです。その進路を明確に決めたのは、中学3年生の時です。実はその頃、小学2年生から始めたバレエにどっぷりハマっており、バレリーナになるか医師になるかで本気で迷っていました。そんな私に道を示してくれたのは、当時の担任の先生。「長く続けられる職業の方がいいんじゃないか」というアドバイスを受け、バレエを続けながら、指の皮がめくれるほど猛勉強して医学の道に進みました。

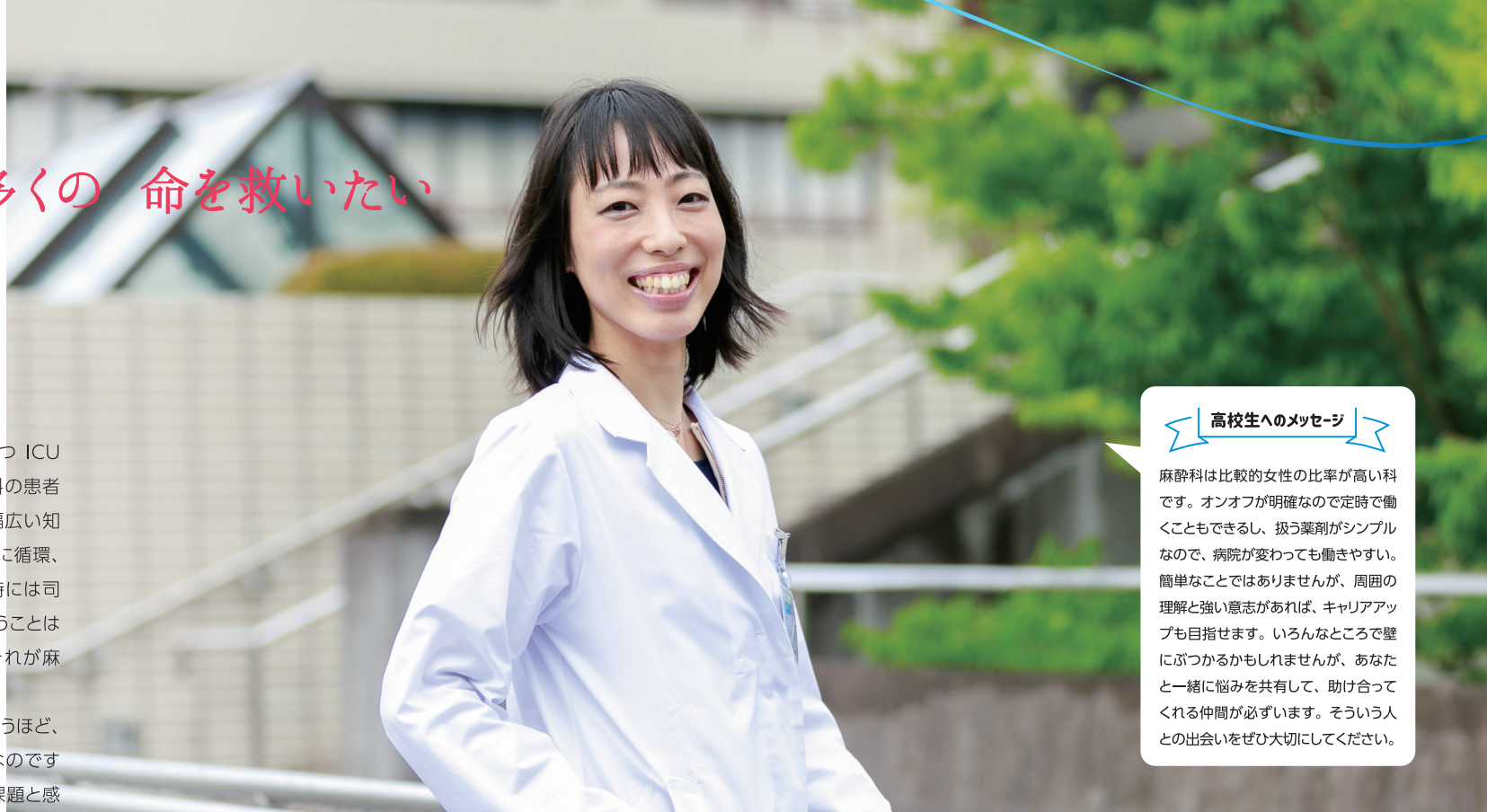
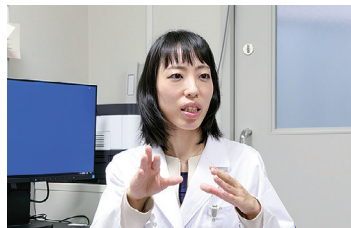
私は麻酔科医なのですが、初めて麻酔をかけるところを見た時、魔法だ！と感動したのを覚えています。例えば、自分で意識して片方の肺だけ動きを止めることはできませんよね。しかし、麻酔科医の手にかかれば、いとも簡単に片肺だけを換気させることができます。下半身麻酔にしても、脊髄のココ！というところにわずかな薬剤を投与するだけで、下半身の神経のみをブロックさせてしまう技術はすごいことだなと思いました。

課題は臨床と研究の両立。限られた時間の中でできることを

それを実感したのは研修医の時。麻酔科の仕事は、大きく分けると三

つあります。手術室での麻酔、重篤患者の呼吸・循環などを保つICUでの全身管理、痛みを取り除くペインクリニックです。あらゆる科の患者に対応する必要があるため、麻酔科医には正確な技術に加え、幅広い知識も求められます。患者の体のことはもちろん、術式や薬剤、呼吸に循環、脳神経と、全てを理解していないと務まりません。また、手術時には司令塔としてチームをまとめるため、緊急時であっても冷静さを失うことは許されません。職人であり、救命のスペシャリストでもある。それが麻酔科医なのだと思います。

それに気づいて以来、麻酔のことなら何時間でも話せる！というほど、麻酔科医の仕事が好きになった私。夢を叶えた今、とても幸せなのですが、臨床や育児に追われて研究の時間が十分にとれないことを課題と感じています。私の研究テーマは、周術期（手術中だけでなく前後を含めた一連の期間）における感染症制御。頑張って手術を成功させても、術後、感染症によって命を失ってしまう場合があります。手術をすると、体力や免疫力がどうしても低下してしまうので、感染症を完全に防ぐことはできません。しかし、そのリスクを軽減させ、なるべく多くの命を救いたい……。それが、このテーマを選んだ理由です。限られた時間しかない中、少しでもできることをと考え、現在は自称「手指衛生の声かけリーダー」を務めています。周術期の手指衛生を徹底するという簡単なことで、感染症のリスクは大幅に下がるということを示したいと思っています。



高校生へのメッセージ

麻酔科は比較的女性の比率が高い科です。オンオフが明確なので定時で働くこともできるし、扱う薬剤がシンプルなので、病院が変わっても働やすい。簡単なことではありませんが、周囲の理解と強い意志があれば、キャリアアップも目指せます。いろんなところで壁にぶつかるかもしれませんが、あなたと一緒に悩みを共有して、助け合ってくれる仲間が必ずいます。そういう人との出会いをぜひ大切にしてください。

💡 ESSENTIAL THINGS

休みの日は料理三昧！
子どもたちへの愛情が原動力。

休みの日はご飯の作りおきします。子どもたちに食の大切さを伝えたいし、食物アレルギーもあるので、安全安心の手作りご飯を食べさせてあげたい！私なりの愛情と時短術です。



💡 私のKey Item

進路を迷うほど愛したバレエ。
いつか息子と踊りたい。

幼少期から熱心に打ち込み、一時は本気で夢見たバレリーナへの道。今は踊れていませんが、上の息子も2歳の時からバレエ教室に通い始めました。いつか一緒に踊る日を夢見ています。



果林先生のある1日

06:00 起床
07:20 保育園にむけて出発
08:00 出勤、外来や手術麻酔など
17:15 退勤
18:15 子供達と帰宅
18:30 夕食
20:30 家事
22:30 勉強、学会発表準備等
23:30 就寝

出勤するまでにすでにヘトヘトになっています……

勉強好きがたどり着いた経営学。企業に影響を及ぼすまでの一連の研究

経営管理大学院・大学院経済学研究科教授 / アスリ チョルパン (Asli Colpan)

エーゲ大学繊維工学部卒業→リーズ大学繊維経営学大学院修士 (M.S.) 課程修了→京都工芸繊維大学大学院理工学研究科博士 (工学) 課程修了
→京都大学経済研究所 日本学術振興会特別研究員→同志社大学技術・企業・国際競争力研究センター COE 研究員→京都大学経営管理大学院 准教授
→大学院経済学研究科 准教授同→同 教授→京都大学経営管理大学院 教授
【研究テーマ】多角化したビジネス・グループの持続性：理論的および実証的考察

勉強が好きだったから得た来日の機会。完璧な日本が気に入った

「勉強をしなさい!」。親御さんにそう注意された経験のある方は多いのではないのでしょうか。私の場合はその真逆で、子どもの頃は宿題をするの一番の楽しみ。時には「何時まで勉強しているの!」と怒られるような、珍しいタイプの人間でした。得意だった科目は、数学、化学、物理学。ロジカルに考えれば答えを導き出せるところが面白く没頭しました。

その志向は成長しても変わらず、大学で選んだのは繊維工学。工学の中でもなぜ繊維?と、聞かれると当時は人気分野でしたし、また今から考えると恥ずかしいのですが、好きだった子の希望進路だった、というのが理由の一つでした (笑)。きっかけは不真面目だったけど、入学してからは真面目に勉強を頑張りました。そのおかげで、成績優秀者だけが選ばれる、日本の繊維工学関連企業へのインターンメンバーになることができました。

これが私にとって最初の海外体験。初めて訪れた外国が日本でした。一定期間過ごしてみると、電車は時間通りに来るし、やるならやる、やらないならやらないとはっきりしている。ある意味完璧なシステムが出来上がっている社会で、完璧を求める私の性格によく合っていると思いました。その後、一度はインターン先の企業に就職することを希望したのですが、働くなら日本語ができないとダメと言われ……。まだ勉強したい気持ちもあったので、奨学金を申請してリー

ズ大学の修士課程、京都工芸繊維大学の博士課程に進むことにしました。

自分で掴み取った経営学研究の道。いつも論文の先を見据えて

経営学に出会ったのはリーズ大学にいた頃。当時の工学の授業はすでに知っていることが多く、もっと新しいことを学びたいと思っていた矢先に見つけました。みんなが競い合って勉強していた環境も肌に合って、途中からはすっかり経営学の虜になりました。どちらの大学も奨学金は工学で申請していたのですが、リーズ大学の時は熱意で認めてもらい、京都工芸繊維大学の時は、学内に経営学の研究科がなかったので、工学研究科に所属しながら京都大学の特別研究員になる。という形にたどり着きました。

現在、研究しているテーマは、簡単にいうと企業戦略と企業統治。多角化するビジネス・グループ——例えば自動車を作ると同時に、ファイナンスや化粧品分野も手がけている企業が、どういう成長の仕方をしたのか。なぜそれほどまでに多角化したのか。ということ、企業史から考察したり、役員報酬のあり方が、その会社の業績とどう結びついているのか。などを計量経済学的手法を用いて分析したりしています。

経営学というのは、企業活動全般を研究する学問です。その性質的に、論文を出して終わりというわけにはいかないので、企業に行って発表するか、社外役員として結果を出すなど、何らかの形で企業に影響を及ぼすところまでが、一連なのだと考えています。また、私は海外のビジネス・グループを中心に研究しているので、国際的なトップ雑誌などで成果を発表することも、常に心がけている姿勢の一つですね。出版した書籍がハーバードビジネススクールから認められ、2016年から1年間、客員教授として迎え入れられたことは、とても嬉しかったことです。



高校生へのメッセージ

今のうちから、好きだと思えることを勉強してください。それは自発的なものでも、周囲からの指摘で気づいたものでもいい。自分が本当にやりたい!と思えることが見つければ、もっと深く知りたくなるはずです。極めるために集中すれば、研究者としてきっと成功できるし、好きなこと=仕事になれば、楽しい人生になります。別の道に進んだとしても、その経験は必ず自身の成長に繋がると思います。

♡ ESSENTIAL THINGS

バランスを取るために必要な二つの大切な時間。

リフレッシュしたい時は、少しでも外にお出かけ。お気に入りの場所は近くの公園のスタバと大学の研究室です。コーヒーを片手に子どもと過ごす時間も、研究室で一人になる時間も両方大切にしています。



📷 私のKey Item

研究のお供はメロディアスなクラシックミュージック。

本当はクラシックコンサートに行くのが大好き。子どもが幼い今は難しいので、スマホに入れた音楽を楽しんでいます。研究中によく聴くのは、パッハの「ゴールドベルク変奏曲」。



チョルパン先生のある1日

- 09:00~09:30 ● 研究室へ
- 09:30~12:00 ● 研究、授業、会議など
- 12:00~13:00 ● 昼食 研究室で食べます
- 13:00~18:30 ● 研究、授業、会議など

👉 帰宅後 夕食、家事等をします

出勤時間は
研究状況、
会議等の都合で
変わります

本との出会いを糧に「社会」を考える。

国際高等教育院 准教授 / 竹内 里欧 (TAKEUCHI Rio)

京都大学文学部人文学科卒業→大学院文学研究科修士課程修了→大学院文学研究科博士課程修了→大学院人間・環境学研究科 学振特別研究員
→椋山女学園大学国際コミュニケーション学部 講師→京都大学大学院教育学研究科 准教授→国際高等教育院 准教授 (兼任 教育学研究科 准教授)
【研究テーマ】ナショナリズムと「文明化」の相克・融和のメカニズム／子どもと家族をめぐる文化:大正・昭和初期都市新中間層と児童文学の關係の文化社会学的分析

人生で出会った様々な本が研究を推し進める力に

私が研究している分野は社会学です。一言で説明しようと思うと難しいですが、社会が抱える問題や現象、人間の社会的な生活などを幅広く追究する学問なので、教育や文化、歴史に産業と、いろいろなアプローチの仕方があります。私には二つ研究テーマがありまして、一つ目は、ナショナリズムと「文明化」の關係というテーマで、博士論文では、西洋のまなざしの中で近代日本社会がどのように自画像を描いていったかということを分析しました。たとえば、注目した現象として、新渡戸稲造による「武士道」のブームがあります。新渡戸は、1899年に『武士道』を英語で出版し、「文明化」された「東洋の代表者」たる日本にふさわしいジェントルマンシップとして「武士道」を再構築しました。彼はなぜこの本を書いたのか、そこにはどのような戦略がひそんでいたのか、また、その戦略にはどのような陥穽や危うさがあったかということを分析しています。これに関しては、芥川の有名な小説「手巾」が研究を推し進める力となりました。「手巾」には新渡戸をモデルにした人物が戯画化して描かれているのですが、物語の最後、主人公は得体の知れない「不安」にとらわれます。この、芥川が暗示した不安は何かという謎が分析をする上でのヒントともなっています。そして、二つ目は、大正～昭和初期頃の家庭小説・佐々木邦の作品分析です。文化社会学的な見地から、描かれた子どもや家庭のイメージを読み解いています。実は、佐々木邦の作品に出会ったのは小学1年生の時です。父が文系の研究者だったこともあって、家の本棚にはいろんな書籍があふれていました。そこにあった1冊が佐々木邦の『苦心の

学友』でした。リベラルな雰囲気、上質のユーモアなど、子どもながらに面白くずっと心に残っていました。大人になって評伝的な興味から調べてみると、ユーモアに満ちた家庭小説を生み出しているのに、本人の方は冗談が苦手な真面目な性格であり、厭世的な考えや人間観を抱いているなど、背景が複雑であり、いつかもっと深く掘り下げたいと思っています。

日々迷いつつ

とはいえ、昔から研究者になると決めていたわけではありません。文学部に入学すると、同級生には、韻を踏んだ美しい英文をすらすら書く学生、西田幾多郎の哲学についてとうとう話す学生など志高才気にあふれる学生もちらほらいて、こういう人こそ文学部向きなんだろうなあ、私みたいなのが入るところではない、と思いました。しかし、そうした中でも、友達の影響や背伸び心で、いい本や映画、音楽などをたくさん教えてもらって味わう時間がふんだんにあったのがよかったです。研究の過程では迷うことが多かったですが、一つの転機となった本は、橋川文三の『日本浪漫派批判序説』でした。自分の実存の関心と思っているものが実は非常に世代や社会的なものに拘束されているという発見、文学的潮流と社会の接点、暗い部分に目配りした人間観など、刺激を受け、それまでどちらかという小説などをただ面白く読んでいたのが、分析的思考の面白さに大変スローなながら思い至りました。研究者になるためには、もちろん努力が必要なのですが、必ずしも努力が報われるということはありません。誰にでもおすすめできるとはいえないところがあります。現在、個人的には子育て中で、時間的制約が厳しく悩みつづきます。まわりの優しさに甘えつつ研究者としていさせていただいているので、感謝を忘れず、そこでできることを一生懸命やらなくてはと思っています。



高校生へのメッセージ

ダメ学生だった私がいうのもおこがましいですが、京大や京都の町、学生文化には、知への憧れを満たす資源がたくさんあると思います。また、効率や即効性が要求される昨今においてもなお、カイヨワの聖・俗・遊分類でいうところの「遊」のような、純粹に楽しい学び(遊び)の時間を尊重する雰囲気も比較的にあるようにも思います。そういった環境を活用し、知的快楽を存分に味わえる体験ができるといいなと思います。

💡 ESSENTIAL THINGS

趣味は15年以上習ったピアノ。
今は子育ての合間に少し。

3歳から高校3年生までピアノを習っていました(適当な感じで…)。院生時代は現実逃避的？に入れ込んでしまいましたが、今は保育園のイベントなどでたまに弾かせてもらうくらいです。



💡 私のKey Item

やや中毒気味のコーヒー。

共同研究などで滞在したフィンランドでもコーヒータイトイがいやしの時間でした(写真はフィンランドの夏の夜の湖)。



里欧先生のある1日

- 07:20 ● 起床・朝食準備。
- 07:30 ● 子どもを起こして、朝の出動準備
- 08:40 ● 家を出る
- 08:55 ● 保育園を経て大学に到着。09:00～18:00頃までメール処理
授業準備、授業、会議準備、会議、資料収集、資料を読む
● 学生指導、原稿書き、などなど。
- 18:10 ● 大学を出る
- 18:50 ● 保育園を経て家到着。入浴・夕食・明日の準備
- 21:00 ● 夫婦帰宅。子ども二度目のごはん
- 23:00 ● 片づけ・洗濯。子どもが寝る。
- 24:00 ● 後片づけ
- 25:00 ● 就寝

合間に
食食・コーヒー

ひたすら寝かしつけ

私にとってのキャリアは点と点をつないでいくこと

京都大学学生総合支援センター 特定准教授 / 松尾 寛子 (MATSUO Hiroko)

まつお ひろこ 京都大学学生総合支援センター 特定准教授

北海道大学文学部卒業→同大学院文学研究科修士課程修了→株式会社リクルート入社→京都大学特定職員

→高知大学学生総合支援センター 特定准教授→京都大学学生総合支援センター 特定准教授

平成28年度日本経済研究センター研究奨励金【研究テーマ】日本における大卒新卒採用・就職活動の長期化傾向の検証と最適な時期・期間に関する研究

平成29年度科学研究費助成事業【研究テーマ】大卒新卒採用における最適な時期と選考方法・評価基準の開発に関する研究

思ってもみなかったキャリア

北海道大学大学院修了後、株式会社リクルートに入社し、人事システムや能力測定、人材育成にかかわっていました。その後、東京から関西に拠点を移し、京都大学大学キャリアサポートセンター（当時）で7年間勤務。高知大学に教員として赴任して2年間を過ごした後、再び京都大学に戻り、学生総合支援センターで京大生のキャリア教育や就職支援を担っています。キャリアのスタートが民間企業であることや「学生総合支援センター」という耳馴染みのない部署にいるため、「研究者」のイメージからは少し離れているかもしれませんが。私自身、数年前まで大学教員になるとは思っていませんでした。大学の独特の雰囲気が好きなのは大学入学以来変わりませんが、大学で学生を前にしていると、今でも不思議な気持ちになることがあります。

学生時代は大規模データの分析とスノーボード

学生時代は行動計量学を専攻していました。専攻の希望届を出す直前まで、認知系の心理学がよいなと思っていましたが、研究室の説明を聞いて急遽変更。今でも指導くださっている大津起夫先生^{＊1}との出会いでした。ほぼマンツーマンの指導のもと、学部・大学院を通じて、“*The Bell Curve*”の再分析を行いました。数十万件のデータを分析し、人々のどんな属性や経歴が高収入に結びつくのかを探る研究で、社会学では階層研究と呼ばれる分野です。この時期に統計分析の基礎を身につけられたことにはとても感謝しています。

研究と並行して熱中したのが、スノーボードのアルペン競技。せっかくなら北海道らしいスポーツを、ということで始めたスノーボードにたちまち夢中になり、社会人チームで練習していました。インストラクターの資格も取り、遠征費用をレッスンで稼ぐ「雪山サイクル」で、学部生時代は一年の半分以上をスキー場で過ごしていました。大学時代は研究とスノーボード以外は語ることがないほど。やりきりすぎたせいか、北海道を離れてからはスノーボードをしたことはありません。

点と点がつながっていく楽しさ

大学院修了後、リクルートに入社しました。昔から本が好きだったので、出版事業だったらいいなと思っていましたが、配属は予想外の人事システムコンサルティング部門。希望の配属ではありませんでしたが、学生時代のデータ処理の経験からデータベース構築やプログラミングにすんなり入っていけ、自分の中では「点」であった大学の研究が今の仕事と「線」で繋がった感覚がありました。その後、SPI^{（＊2）}の開発や人材育成コンサルティングにもかかわりましたが、統計の知識が応用できたり、システム構築の経験がサービス開発に繋がったりと、点と点がつながることで仕事を楽しく続けられてきたように思います。キャリア理論のなかで「計画された偶発性」という概念があります。ごく簡単に言い換えると「キャリアは用意周到に計画して形成されるものではない。ほとんどが予期しないことの積み重ねでできている」という考え方です。私のキャリアは計画性なし。これからも偶然起こることを楽しみながら、人生を積み重ねていきたいと思っています。

研究テーマは日本の新卒採用と大学生のキャリア形成

日本の新卒採用は「大学生が同じ時期に、一斉に、就業後の業務を指定されずに就職活動をする」という点で他国と異なります。また政府や大学、企業が採用活動に一律のルールを設ける動きも特徴的です。最近話題になっている「守られない」採用活動解禁日は100年近く前から幾度となく繰り返されてきた慣習です。これらの制度がなぜ日本社会に深く根付き、継続されているのか、そして、この制度のもとで就職活動をした大学生のその後のキャリア形成はどうなっていくのかを明らかにしたいと思っています。その上で、日本の就職・採用活動の改善に向けて何らかの提言ができれば本望です。

近年、女性が牽引する社会運動が世界的に大きな影響力を持っています。こういった運動とその影響力を見るにつけ、自分に課された責任を果たすことについて考えます。多様性を認め合いながら一人ひとりがいきいきと働ける社会の実現に貢献したいと思っています。

＊1 現 日本入試センター 試験・研究統括官。＊2 リクルートが開発した統合適性検査。採用場面で広く利用されている。



高校生へのメッセージ

進学先の大学や就きたい職業、将来の夢についていろいろと計画し、思いをはせていると思います。計画通りに物事が進めば苦労はないですが、そうはいかないのが人生。私も思いがけなく転職したり、結婚したり。単身赴任までありました。人生はいろいろなことが起こりますが、突然の出来事や変化を柔軟に受け止め、楽しみながら人生を歩んでいってください。

💡 ESSENTIAL THINGS

今でも札幌は大好きな場所。

学生時代を懐かしみつつ、「頑張ろう」と思いを新たにする場所です。今でも雪道運転と凍結路面歩行には自信あり。



📷 私のKey Item

夫と共通の趣味がドライブ。

夫と共通の趣味がドライブ。今の車は学生時代から数えて6台目。高知に単身赴任中は車で京都ー高知間を何度も往復。さすがに遠かったです。



寛子先生のある1日

- 09:00 ● 出勤
- 09:00 ～ 11:00 ● メールチェックをしたり、キャリアサポートルームのスタッフと業務の確認
- 11:00 ～ 13:00 ● 論文を探したり、読んだり
- 13:00 ～ 14:00 ● 昼食
- 14:00 ～ 16:00 ● 論文続き、データ分析など
- 16:00 ～ 19:00 ● セミナーやガイダンスの講師・立会い
- 20:00 ● 帰宅
- 20:00 ～ ● 就寝まで 夕食、家事、読書など

リラックスしながら過ごせるひととき

中央アジアの歴史と現在を往復しながら近代性について考える

東南アジア地域研究研究所 社会共生研究部門 准教授 / 帯谷 知可(OBIYA Chika)

おびや ちか 東南アジア地域研究研究所 社会共生研究部門 准教授
【研究テーマ】中央アジアにおける社会主義的近代化と現代

中央アジアの近代化のプロセスを探る

大学の授業でプラトーフの小説『粘土砂漠』が取り上げられ、ロシア革命期の中央アジアに関心をもち、ロシア革命後に中央アジアで起こったバスマチ運動をテーマにした卒論を書いたことが、研究の道に進んだきっかけです。その後、在ウズベキスタン日本大使館や国立民族学博物館地域研究企画交流センター(当時)でキャリアを積み重ねるなかで、現在の研究テーマがかたちづくられていきました。

現在は、ウズベキスタンをはじめとする中央アジア諸国の原型が、ソ連体制下でどのようなプロセスを経て形成されたのか、そして社会主義のもとでの近代化とソ連解体を経てどんなことが起こり、文化や人々の暮らしがどのように変わったのかに関心があります。例えば、これまで中央アジアの民族・共和国境界画定や、ソ連解体後のウズベキスタンの上からのナショナリズムなどについて研究してきました。

また近年は、女性がまとうイスラーム・ヴェールの問題に関心をもち、中央アジアにおけるソ連期の女性解放運動や、近年のイスラーム復興の諸現象などとの関連で考察しています。イスラーム・ヴェールにまつわる問題について、中央アジアの現代・ソ連時代・ロシア帝国時代とさかのぼることで、ジェンダーや家族をめぐる規範と近代性をすり合わせようとした葛藤の歴史が浮かび上がってきました。こうした問題を明らかにすることは、20世紀の近代性を振り返り、これからの社会を考えるうえでたいへん重要だと考えています。



中央アジアに残る 貴重な史資料保存に取り込む

その他にも、19世紀後半からロシア革命前夜までロシア帝国によって編纂された『ト

ルキスタン集成』という資料集成の保存・共有プロジェクトに携わりました。中央アジアの歴史や文化、市井の生活、さらには自然科学などについての情報を含む、この貴重なコレクションはウズベキスタンの国立図書館に所蔵されており、在外研究の時にこの資料集成に出会ったのです。ソ連時代にマイクロフィルム化されたそうですが、当時マイクロリーダーがなく原本は痛みが激しい状態でした。そこで、現地の出版社と協力しながら原本のデジタル複製版の作成を試みることにしました。デジタル版は、ウズベキスタンの国立図書館と京都大学で共有し、東南アジア地域研究研究所図書室で閲覧できますし、また『トルキスタン集成』データベースとして書誌情報を公開しています。

研究の醍醐味は、明らかにしてきた断片的な事柄をつなげ総合すること。点と点を結びつけて線にすることで、大きな絵が描けた時は大きな達成感、わくわく感をおぼえます。『トルキスタン集成』もデジタル化の後、ロシア帝国における中央アジアに関する植民地的「知」の体系化という観点からその編纂史について研究しました。

多くの女性に研究者を目指してほしい

女性にとって仕事と家庭の両立は大きなテーマです。私も『トルキスタン集成』のアーカイブ化に取り組みはじめた頃に高齢出産とほぼ一人での育児を経験し、いろいろ大変なこともありましたが、職場の方々の温かいサポートもあって、研究活動を続けることができました。現在は東南アジア地域研究研究所の男女共同参画推進委員会のメンバーとして、小さな子どもをもつ職員が無理なく働ける環境づくりに努めるとともに、ジェンダー・セミナーの開催や広報活動などにも取り組んでいます。年々、男女共同参画の認識が高まり、育児中の研究支援なども拡充されてきているので、研究に興味のある人は臆せず目指してほしいと思います。現在の職場にはイクメンも多く、心強く感じています。

💡 ESSENTIAL THINGS

今の私にとって大切なことは
“もの”ではなく“時間”。

平日の夕方も休日も、水泳や音楽など、子どもの習い事の送り迎えが忙しいです(笑)。子どもとの時間はもちろん大事ですが、仕事と育児に頑張れる自分をキープするためには一人でゆっくり過ごす時間が大切です。



📷 私のKey Item

中央アジアを
訪れた時の密かな楽しみ。

毎年一度はウズベキスタンを訪れます。その際、現地の工芸品を見て回ることが楽しみのひとつ。それぞれ独特の味わいがあるのが魅力です。柘榴模様を集めています。



高校生へのメッセージ

小さなことひとつでも、自分が夢になれることがあったら掘り下げて、そこから世界を広げていきましょう。「何の役に立つのか?」と疑問を感じたとしても、そればかりに気をとられると、大切なものを見失ってしまいます。どんな成果につながるにせよ、やってみましょう、続けてみましょう。

知可先生のある1日

06:30	起床、朝食準備	なかなか起きない!
07:00すぎ	子供を起こす→朝食	
07:30 ~ 08:30	子供を送り出し、後片付け、庭の草花に水やり、メールチェック、身支度等	
10:30頃	研究室へ。以降、夕方まで会議・授業・ゼミ以外は研究室で主にいろいろな「業務」。	週に1回、習い事の待ち時間に1週間分の買い物
18:30頃	子供を迎えに行き、日によって習い事送り	
20:00頃	夕食準備→夕食 片づけ終わると20時半くらい	
20:30	しばし家族団らん(子供宿題)、子供と1日交代でお風呂掃除→入浴	
22:30	子供就寝	なかなか寝ない!
22:30以降	読書・自分の研究・原稿書きなど	やっと自分の時間!

京大で学ぶ女子特別座談会



学び、研究することが、「楽しい」「面白い」と目を輝かせる女子3人。
それぞれの研究やチャレンジについて、語っていただきました。

● 京大を目指したきっかけは？

I 中学生の頃から抱いていた私の夢は学校の先生。将来を思い描くうちに、学校や教育のあり方自体に興味をもち始め、研究が盛んな京大に行こうと思いました。決めたのは高校1年生の時です。

N 私が京大志望したのは遅くて、高校2年生の冬ぐらいです。周囲に流される形で塾に通い始めたら、そこの先生に「人生で1回ぐらい、負けてもいいような勝負をしてみたら？」と言われ、挑戦してみました。



H 私が小学2・3年生の頃にiPS細胞研究所の山中教授の大発見がありました。その時に、一流の研究ができる京大に行きたいと思いました。それからは、京大に行くために中学も高校も選択し、今に至っています。

● 実際に入学してみようですか？

H 比較的すぐに最先端の研究に触れることに驚きました。今、セミナーでウィルス・再生医科学研究所に行かせてもらっていますが、世界で初めてES細胞から神経を作った先生から直接教えてもらえたり、スタッフからいろいろと話を聞けたりしています。それってすごいことだと思います。

I 自由に自分の好きなことに打ち込める学校だと感じています。勉強に熱中してもいいし、サークルやボランティアを頑張っているのもいいし。全てが自律的な判断に任されていて、時間を自由に使えるし、直接的に拘束されることがありません。

N 入学前は京大生といえば“イカ京”のイメージがありましたが、意外と美男美女も多いし、学生生活を充実させながら勉強もしてい



ます。最先端の世界で活躍している教授も、学部生時代はこんな感じだったのかと思い、今では身近な存在として感じられるようになりました。

● 授業の楽しさを教えてください。

N 生物が好きで、一般教養でも関連する授業を履修しています。植物と人間は姿形が全然違うのに、意外と似通っているところがあります。そういう今まで知らなかった知識を得られるところが面白いと思います。

H 私が履修しているものの中には、先生から出される課題に対して、班ごとに意見をまとめて提出します。翌週、各学生が一番良いアイデアに投票し、その結果によって点数が決まるという授業があります。双方向型なうえに、いろんな考え方を知ることができるので、参加していて楽しいです。

I 私はいろんなところに興味が広がるタイプで、海外や歴史も好きなので、世界中の教科書などを比較する授業や、ドイツの歴史に関する授業は、聞いていてすごく面白いし、新しい発見の楽しさがあります。今は、近く、短期留学ができないかと計画中です。いつかは興味をもったさまざまなことが、一つの研究テーマとして集約できればと思っています。



● 今後の夢や目標を聞かせてください。

H 夢は研究者。先生方を見てみると、純粋に好きなことが毎日できることがいいなと思います(笑)。3回生の時に専門分野を決めるのですが、私が目指しているのは生物で、再生医療などの研究室に入りたいと思っています。将来は、学振特別研究員になるのが目標です。

N 生物に興味があることもあって、植物工場に関する研究室が気になっていますが、決めるのはこれからです。ロードバイクに乗るのが趣味なので、まずは大学生ならではの長い休みを利用して、日本全国を駆け回ってみたいと思っています。

I 1回生の時にフィールドワークで離島の学校を見学して以来、私が目指しているのは教育委員会や文部科学省といった行政機関への就職です。先生になりたいというのが出発点なので、教員免許の資格は取得しますが、裏方として学校を支え、生徒をサポートするような仕事がしたいと思っています。



野本 千鶴さん **N** 農学部1回生

🗨️ **高校生へ** 京大を受験するために、部活を辞める人もいますが、そこは諦めないでください。オンオフをしっかりと切り替えたら、勉強と楽しいことは両立できるし、私自身その経験が今に活きていると感じています。自分を高める機会だと思って、何事にも挑戦してみてください。



東島 いずみさん **H** 理学部1回生

🗨️ **高校生へ** 自分に関係がないことも知識を得ていくことも大切だと思います。ディスカッションをしても、専門の知識じゃ議論が深まらないことがあります。理系であっても、それだけに留まらず、社会的背景にも目を向けることが必要だと実感しています。



富田 一葉さん **I** 教育学部2回生

🗨️ **高校生へ** 大学生になってから、教養の大切さをひしひしと感じています。私は高校生の頃「勉強が恋人！」ぐらいのガリ勉でしたが、先生に勧められて1日1冊ペースで新書を読破しました。これが今の私の糧となり、いろんなことに興味を持つことができました。



「女子高生・車座フォーラム2018」を 12月22日(土)に開催

京都大学男女共同参画推進センターでは、京都大学の研究者や科学者の仕事を知ってもらうため「女子高生・車座フォーラム2018 知ろう! 語ろう! 京都大学!」を企画しています。

京都大学がどんなところなのか、大学ではどんな勉強や研究をするのか、また大学卒業後の進路にはどんなものがあるのか、また大学卒業後の進路にはどんなものがあるのかなど、さまざまな疑問に教員や学生がお答えします。

興味のある方は、センターホームページをご覧ください。

<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>



参加すれば、京都大学がより身近に!
京都大学を「見る・知る・体験する」イベントがいろいろ!

大学祭(11月祭)

11月下旬に行われる京都大学の学園祭です。

スペシャルライブや講演、研究室企画のほか、京大スタンプラリー、京大ガイドツアー、映画祭典、古本・古レコード市、さらに100店以上の模擬店が出店、特設ステージで行われるライブやイベントなどでにぎわいます。

たちばな賞(優秀女性研究者賞)

学術上優れた研究成果を挙げた京都大学の若手女性研究者や博士課程学生を大学として讃える制度。

おもしろチャレンジ

体験型海外渡航支援制度。
既製の留学ではなく、本学学生の主体的に海外で学んでみようという意欲を後押しすることを目的に、奨学金を支給する制度。

久能賞

21世紀における地球規模の課題を解決し、よりよい世界を目指し、社会に貢献したいという高し、志を持ち、科学・技術分野において自ら定めた独創的な夢を持つ意欲のある本学女子学生を支援する制度。



出前授業・オープン授業

9月～12月に実施
全国の高校対象・高校の費用負担なし(要申込み)
この事業は高大連携事業の一環として行われるもので、本学大学院生やポストドクターらを「学びコーディネーター」として高等学校に派遣して授業を行う「出前授業」、本学を訪問した高等学校の生徒達に対し授業を行う「オープン授業」の二つがあります。
受講した高校生たちが、これを機会に高等学校での学びの大切さを実感していただくとともに、将来の進路に対する意識や本学への関心が高まることを期待し、今後も出前授業・オープン授業に取り組んでいきます。

第13回 女子中高生のための関西科学塾

「女子中高生のための関西科学塾」は、関西の大学が中心となり女子中高生を対象に理科実験教室などを行う企画で、2006年から開催しています。第13回目となる今回は京都大学を中心に神戸大学、大阪大学、大阪府立大学、大阪市立大学、奈良女子大学、株式会社クボタなどが参加し、開催されます。京都大学では7月22日(日)に「理系進路選択について」と題して田島 節子大阪大学理学部長と平野 丈夫京都大学理学部長の対談が行われ、続いて4次元デジタル宇宙シアターと女性大学生との交流会があり、休憩をさみ大学院理学研究科の浅井歩准教授と、理学研究科学生の磯田珠奈子さんの講演がありました。



京大を知ろう！ オープンキャンパス

京都大学の教育・研究、学生生活を知り、大学の理念や学風を肌で感じることができるイベント。総長の講演を聞いたり、希望の学部での模擬授業に参加したり、研究室に訪問して先生の話の聞いたりすることができます。学生生活や進路相談コーナー、附属図書館・総合博物館などの施設見学、キャンパスツアーなどの企画があります。

- オープニングセレモニー(総長講演、応援団による演舞、在学生からのメッセージ)
- キャンパスツアー(教室や食堂、図書館などの施設)
- 人気教員による講演会・在学生によるクラブサークル紹介・在学生による公開座談会 在校生交流コーナー相談コーナー、学部紹介コーナー
- 構内施設見学(百周年時計台記念館展示ホール、附属図書館、総合博物館)
- 各学部企画



2018年度日経ウーマノミクスフォーラム 「ダイバーシティ研究環境整備と女性研究者の未来」

8月31日(金)大阪国際会議場において、2018年度日経ウーマノミクスプロジェクト「ダイバーシティ研究環境整備と女性研究者の未来」が開催されました。京都大学も協力大学として参加しました。大学法人にとどまらず私学、一般企業、大阪府、関西経済連合会など多くの協賛企業や後援団体が参加して、女性研究者がキャリアステージごとに抱える悩みや壁、それらの課題の乗り越え方などを議論し、参加者に対し気づきや不安解消の共有を図りました。メインホールでは、基調講演に始まり、3つのパネルディスカッションの中のⅢ「教えて理系のキャリアパス」に大学院理学研究科の浅井歩准教授が参加し意見交換しました。またミニセミナーには、理学研究科宇宙物理学教室の学生町田亜希さんが参加し、「宇宙天気ってなんだろう?」と題して、多くの女子高生などにアピールしました。

当日は、団体受付を行った女子校もいくつかあり、一般の方を含めて500名の参加がありました。

